

防災世界子ども会議

Natural Disaster Youth Summit NDYS

- オンラインが可能にした

防災世界子ども会議 2020 成果発表会 -



2021.6.1

防災世界子ども会議実行委員会

オンラインが可能にした防災世界子ども会議 2020 成果発表会

パンデミック時代の国際協働学習

防災世界子ども会議実行委員会 実行委員長 納谷 淑恵
プロジェクト創設者 岡本 和子

COVID-19 パンデミックは、人々に行動変容を促した。それは日常生活の変化だけでなく、教育においても同様である。学校教育において、ニューノーマルにおける新たな学びと環境が必要となった。防災世界子ども会議は、パンデミック禍であっても、地域と世界をつなぐ SDGs をめざした国際協働学習を実現し、グローバルなデジタル・シティズンの育成を継続して実現することができた。その方法、成果、課題について紹介する。

SDGs 国際協働学習 防災学習ネットワーク Zoom グローバルなデジタル・シティズンシップ

1. はじめに

COVID-19 パンデミックは、人々に行動変容を促した。それは日常生活での変化だけでなく、教育においても同様である。つまり、このような時代にあった、これまでとは異なる学習方法や発表方法が必要となったのである。

防災世界子ども会議(NDYS Natural Disaster Youth Summit))は、2020年の成果発表会として、実際に新潟市に集まり成果発表を行う計画であった。しかし、感染拡大予防の観点から、実際に集まる会議は、中止せざるを得なかった。

参加可能な世界の中小高校生が、主体的にすすめてきた防災学習の成果を Zoom でオンライン発表することに決定し、パンデミック禍であっても国際協働学習の成果発表の場をもつことができた。

本稿では昨年8月23日に行った、成果発表会について報告するとともに、パンデミック時代の国際協働学習の可能性について述べたい。

2. 防災世界子ども会議 ロードマップ

2005年1月、防災世界子ども会議は、神戸での阪神・淡路大震災10周年記念事業「第2回国連防災世界会議 パブリックフォーラム」開催を機に、ひょうごで生まれ育った子どもたちが、「自分たちの震災経験やそこから得た教訓を世界の子どもたちに伝えよう、未来へ生かそう」という目的で、兵庫発アイアーンのグローバルプロジェクトとしてスタートした。

防災世界子ども会議は、ICTを活用し「世界と学ぶ!」をスローガンに「国際協働学習のモデル」として、教育実践を積み重ねてきた。これまでの教育形態ではできなかった国境を越えた国際協働によるグローバルな視点での問題解決型学習の実践である。この先行研究実践については添付資料1を参考にしていきたい。

3. 目的と方法

3-1 防災世界子ども会議が目指すものは、

①地域を創生する 主体的な市民の育成
地球規模での防災意識を共有しながら、それぞれの国・地域にあった持続可能な社会づくり(防災文化の醸成)を目指して、SDGs 達成を担う、次世代の市民を育成する。

②グローバルなデジタル・シティズンの育成

国際協働によるプロジェクト学習の実践で、地球は一つの視点から、地球規模の課題解決を担うなど、イノベティブなグローバル・デジタル・シティズンを育成することである。

3-2 成果発表会の方法

プロジェクト参加校は、成果発表会に向け、すでに災害安全マップやパワーポイントによる発表資料の作成を行っていた。また、災害後の心の癒し、および各国・地域の文化紹介としての音楽発表の練習も行っていた。しかし、学校に集まることさえできない地域が続出し、発表は6か国6グループとなった。



写真1 災害安全マップ 日本

防災世界子ども会議では、Zoomによる会議は、経験したことのないニューノーマルの世界ではなく、2007-2011神戸で開催のオンラインによる国際会議やプロジェクトの途中経過報告

など、プロジェクトのスタートからオンライン会議を行っていたので、Zoomでの発表会はスムーズに進めることができた。

4. 活動内容

4-1 成果発表会概要

タイトル：防災世界子ども会議 2020in 四日市

日時：2020年8月23日（日）

テーマ：気候変動と私たちの住むまちの
「防災・減災・復興」

プログラム：特別講演：

各国グループ発表：

総評：

NDYS2020 宣言文採択

参加者：100名（見学者を含む）

発表者：6か国・6グループ

インド、インドネシア、ウクライナ、
ジョージア、マレーシア、日本



写真2 パワーポイントによる発表資料

4-2 具体的な実施内容

成果発表会のタイトルが「防災世界子ども会議 2020 in 四日市」となったのは、四日市市の学習グループ「はぶっ子カウボーイ」の生徒が発表会の総合司会をすることになったからである。生徒は英語と日本語のシナリオを作成し司会とプロジェクト発表の準備をし本番に臨んだ。

特別講演はジョージアのアイアン代表の Pavle Tvaliashvili 氏によって、COVID-19により教育現場がどのように変わったかを紹介していただいた。

総評は、兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科科長 室崎益輝教授をお願いした。

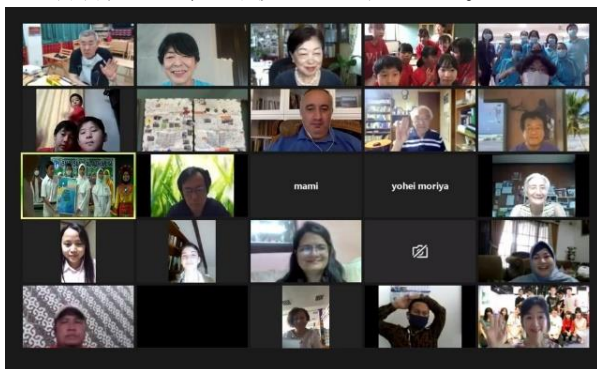


写真3 Zoom会議の様子

Zoom会議の記録をダイジェストビデオに編集し、後日、iEARNのニューズレターで紹介された。

5. 成果と課題

○成果（NDYS2020 宣言文）

NDYSでは、毎年プロジェクトの締めとしてこれからはすべきことを集め、宣言文を発信している。2020年の宣言文は以下である。

・ ‘Take Action for Better Earth,
Green Action for Better Earth! (Indonesia)
Planting for a better tomorrow! (Malaysia)
Save forests for future generations. (Ukraine)
Let's make local elderly people smile. (Japan)
Connect and communicate to overcome disasters. (India)
Let's make the world more lifeful... (Turkey)
Together we can do!! (Georgia)
So, Let's find what we can do and take action. (Japan)

Here we go!

四日市市の子どもたちによる熱意ある司会とこれまでに培ったNDYSグローバルネットワークのもつ多様性の力で、コロナ禍にあっても、笑顔で、希望にあふれた協働の学びの場をオンラインでもつことができた。世界から100名を超える参加者があり多くの感想が寄せられた。



写真4 マレーシアの高校のe-レポート

○課題

GIGAスクールで実現する新たな学びとして、グローバルなデジタル・シティズンシップの形成を目標とする「国際協働学習」が、ニューノーマルにおける新たな学びの形の一つとなる可能性がある。日本において、デジタル・シティズンシップ教育の理論を土台にして、SDGsを目指す国際協働学習の授業案を早急に考える必要があるだろう。

2021年7月に今年もZoomによる成果発表会を計画している。オンラインでの成果発表がニューノーマルとなり、デジタルでつながった世界で、国内外から多くの子どもたちが「環境危機意識」「多様性」「市民性」を学ぶ交流や協働を体験できる場を創出したい。

地域と世界をつなぐ

国際協働学習の実践

防災世界子ども会議 NDYS ロードマップ

